

- **日本における仔犬の生産量：年間約100万頭**
- **年間輸入量：約1万頭**

(中央環境審議会動物愛護部会第21回参考資料, 2009)

- **一般家庭で犬を飼育する飼い主の79%が、犬の問題行動を訴えている**

(中村, 2007)

- **全国での行政殺処分数：98,556頭**

(環境省,平成19年度)

**背景**

**仔犬の時期からの適切な管理と教育が行われていない**

# 「幸せホルモン」について

オキシトシンは母と子の関係にも重要なことから、「幸せホルモン」とも言われているが、実はこのホルモンが人と犬の良い関係の物差しになる。

具体的には、55組の犬とその飼い主の実験で、室内で1組ずつ、30分間ふれあってもらい、実験前後の飼い主の尿に含まれるオキシトシンの濃度を判定した。すると、事前のアンケートで犬との関係が「良好」と判断された飼い主13人では、実験後に濃度が大きく上昇した。一方、積極的に「良好」と答えなかった飼い主42人では、変化がなかった。

このとき、オキシトシンの上昇は犬が飼い主を見つめる時間(注視の時間)に比例することが分かった。さらに、積極的に「良好」と答えなかった飼い主42人のうち12組を無作為に選び、一ヶ月間毎日10回犬とアイコンタクトを行い、その後、同様な実験を実施した結果、12組のうち8組に実験後のオキシトシンの上昇をもたらすことができた。

これらの研究過程から、犬と良い関係を築くには、**犬が飼い主の目を見るようなトレーニングをすること、犬と飼い主の良い関係はオキシトシン濃度で評価できることのほか、飼い主の指示に忠実従う犬との生活は、オキシトシンが頻繁に上昇していることが分かった。**

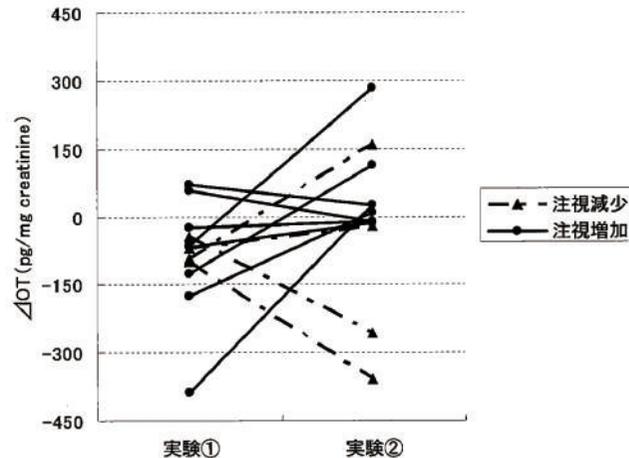


図. 各飼い主の尿中 OT 値の変化 ΔOT: 尿中 OT 値 (post-pre)



この結果は、オキシトシンが動物の「癒し効果」をもたらす内的な物質の一つであることを示すとともに、動物が人の健康にどのように関わるかを明らかにする第一歩になる。

# 海外における幼齢動物の販売規制の例

国名	規制内容	根拠法令
アメリカ合衆国	連邦 最低生後8週間以上および離乳済みの犬猫でない限り商業目的のために輸送または仲介業者に渡されてはならず、または何者によっても商業目的のために輸送されてはならない。	連邦規則
	州法 調査した19州の内、ネブラスカ州では6週齢以下の幼齢動物販売が禁止されていた外、ペンシルバニア州等3州で7週齢以下の販売が、ニューヨーク州等14州で8週齢以下の幼齢動物の販売が禁止されていた。また、ネヴァダ州では業者に離乳前の犬猫の親からの分離を禁止(努力規定)している。	
イギリス	犬の飼養業の許可を受けている者は、許可を受けている愛玩動物店もしくは飼養業者に対し、生後8週間に達していない犬を販売してはならない。	犬の飼養および販売に関する1999年法
ドイツ	8週齢未満の子犬は、母犬から引き離してはならない。但し犬の生命を救うためにやむを得ない場合を除く、その場合であっても引き離された子犬は8週齢までは一緒に育てなければならぬ。	動物保護＝犬に関する全般的規定
スウェーデン	生後8週間以内の幼齢な犬、生後12週間以内の幼齢な猫は母親から引き離してはならない。生後8週間以内の幼齢な犬、生後12週間以内の幼齢な猫は、飼養者から離してはならない。	犬猫の所有に関して提案中の新しい秩序およびガイドライン
オーストラリア	ニューサウスウェールズ州 生後8週間以下の子犬および子猫は、売りに出してはならない。	動物福祉実施基準・愛玩動物店の動物・犬猫に関する特別要求項目
	ビクトリア州 この外にも獣医学的保護事項として、愛玩動物店での離乳前の動物販売を禁止し、また「生後10週間以内の子猫の住まいの変更をしてはならない。」という基準がある。 全ての動物は離乳と自立ができるようになる時期まで販売してはならない。(犬猫ともに最少年齢を8週とした。)	

## 1. 仔犬の発達段階



新生仔期(0～2週齢)…知覚が発達段階, 授乳と睡眠, **生存には母親の存在が不可欠**

移行期(2～3週齢)…視覚:13日前後 聴覚:18～20日前後 歩行 自律排泄  
**社会的行動の芽生え(同腹犬との遊び行動)**

社会化期(約3～12週齢)…**他の犬や人との社会行動を習得(仔犬、その他の成犬等、人)**

若齢期(約12週齢～6ヶ月齢)…社会的行動の習得が継続

## 2. 研究でわかっていること



### ①母親・兄弟犬との関連

・**新生仔期から移行期**に母親から分離されると、攻撃性や不安の傾向が高くなる (Kikusui, Takeuchi, & Mori, 2004)

### ②人との関連

・犬がヒトと社会性を築くには、少なくとも**7週齢**までにはヒトと触れ合う経験をしていることが必要であり、**14週齢**まで人と接触しなかった仔犬は、その後人と接触をさせても人との社会性はまったく築かれない (Freedman *et al.*, 1961)

・**生後3週齢**までの間に人によるハンドリングを受けた犬は、ハンドリングを受けていない犬と比較して不安を示す行動が少なくなる (Hymie *et al.*, 1997)

### ③環境との関連

・**社会化期**に適度なストレスを受けると、成犬になってからストレスに強く、周りの環境からの刺激に動じない性格になる (Pedersen, 1990)

・逆に、**社会化期**に十分な馴致がなされないと、成犬になってから様々な外部刺激への過剰な反応が起こり、飼い主に対する注意・集中の欠落から、しつけにおける学習や、獲得した行動の発現に困難をきたす場合がある (Craig, 1976)

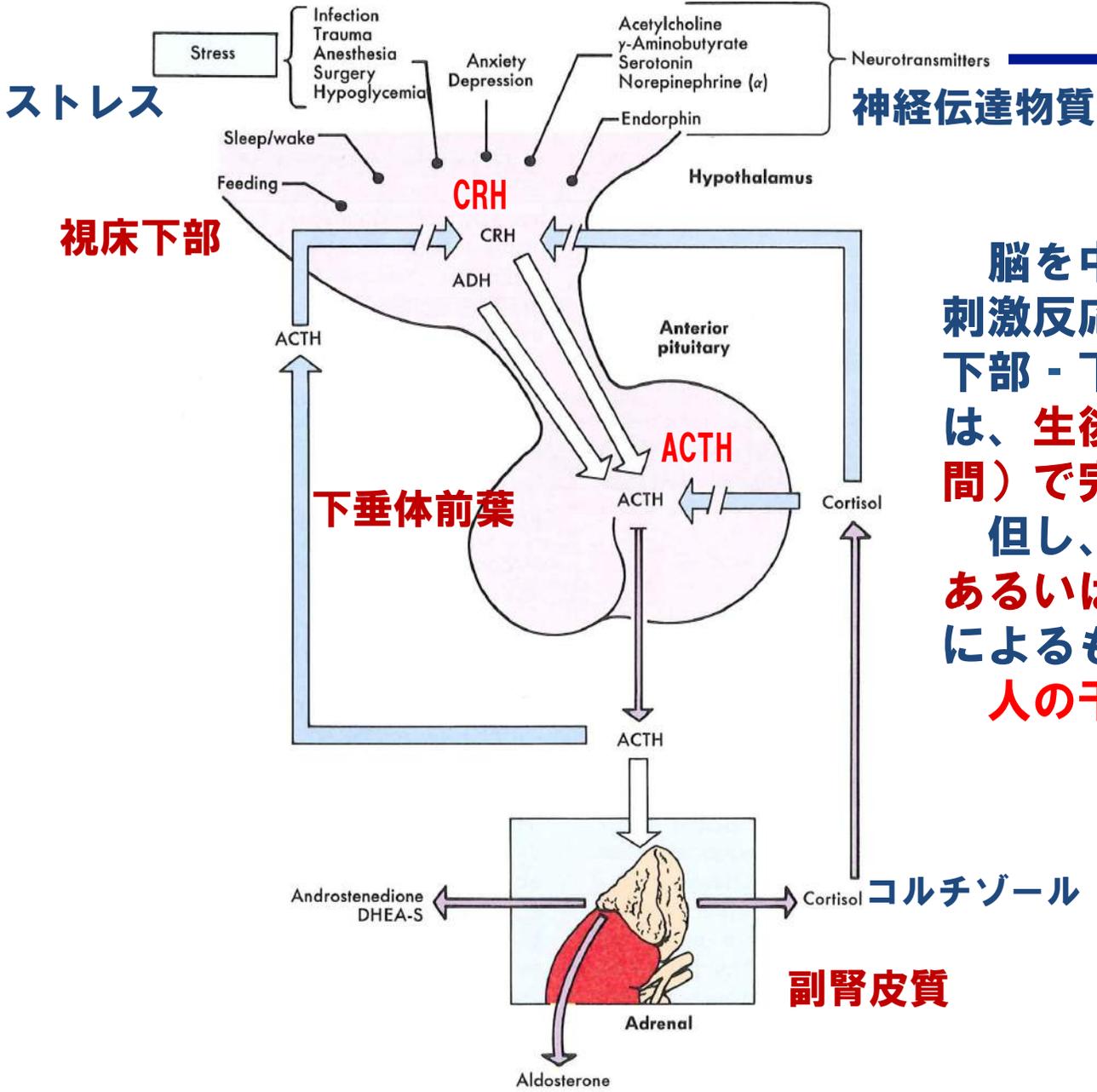
### 3. 問題点



- 繁殖者による**母子分離時期**が早すぎるケースがある
- ペットショップでは、**社会化期**の生体を単独で展示
- 飼い主の手に渡る**社会化期**までの環境はブリーダーの飼育方法に依存

**必要とする時期に、適切なケアやトレーニングが行われていない**

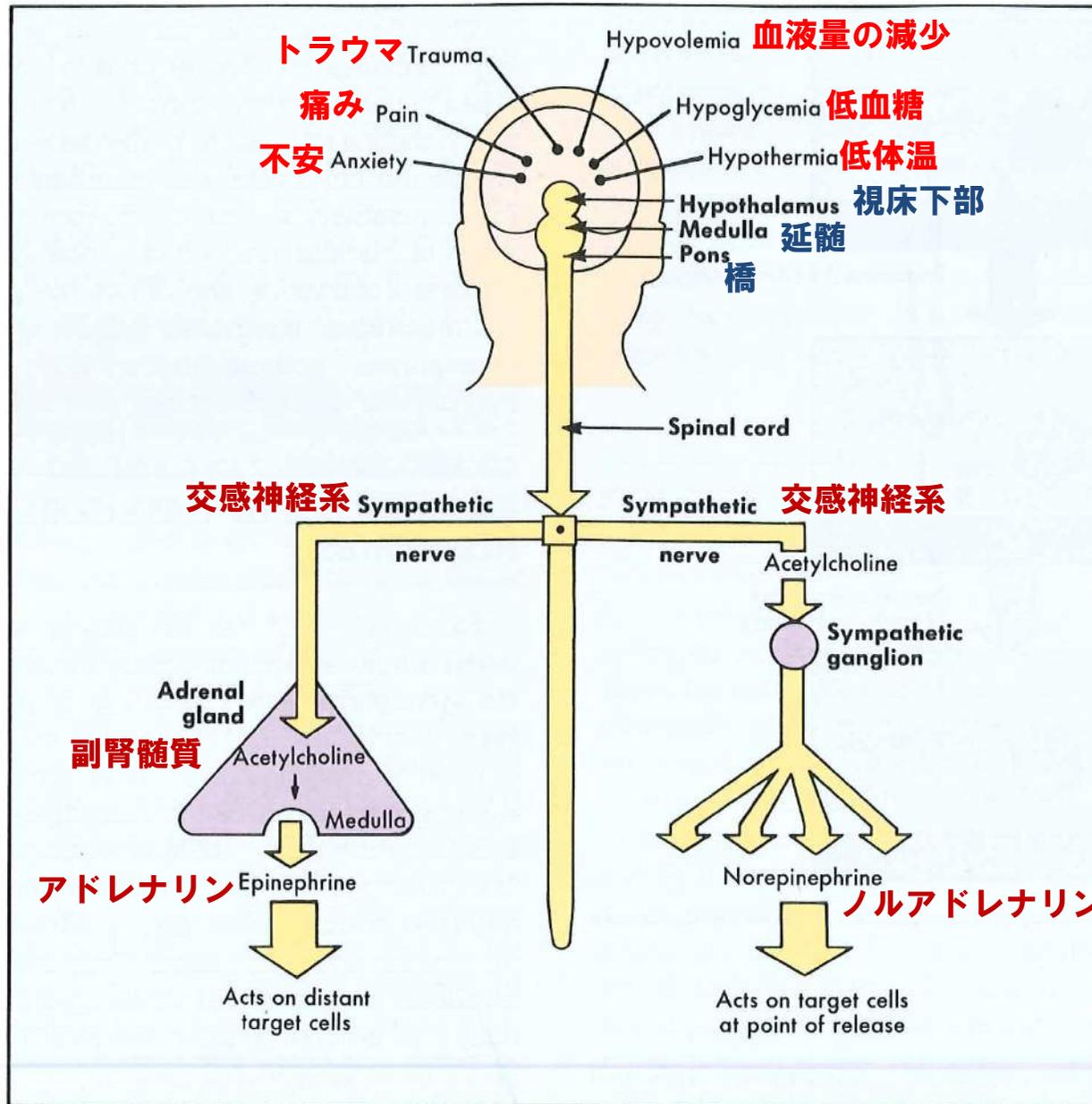
# 刺激反応系



脳を中心にした正常な刺激反応系（例えば視床下部 - 下垂体 - 副腎軸）は、**生後2週間（13日間）**で完成。

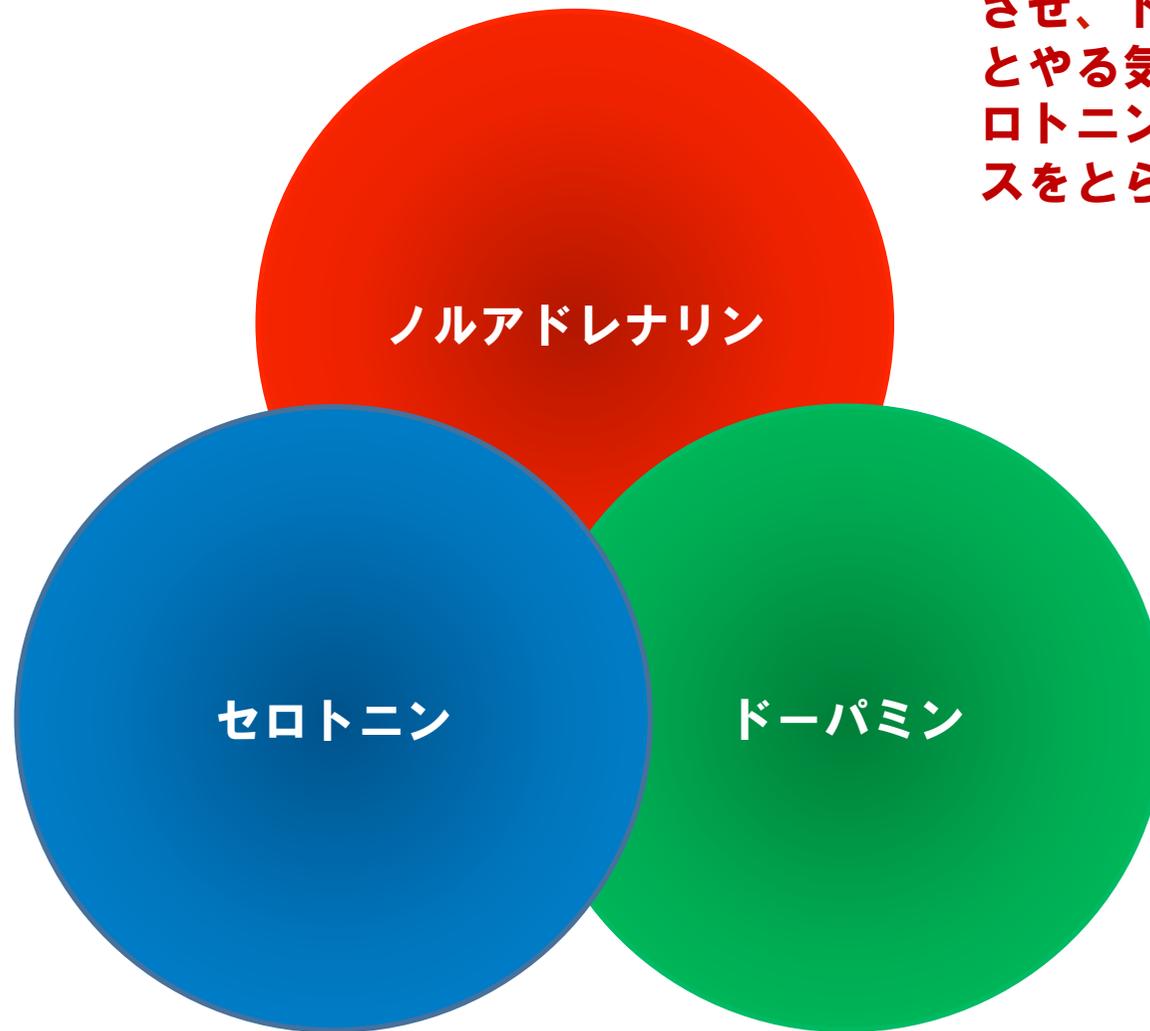
但し、この作業は**母犬**、あるいは**兄弟姉妹犬のみ**によるもの。  
**人の干渉は厳禁。**

# 神経系



# 心の3原色(神経伝達物質)

---



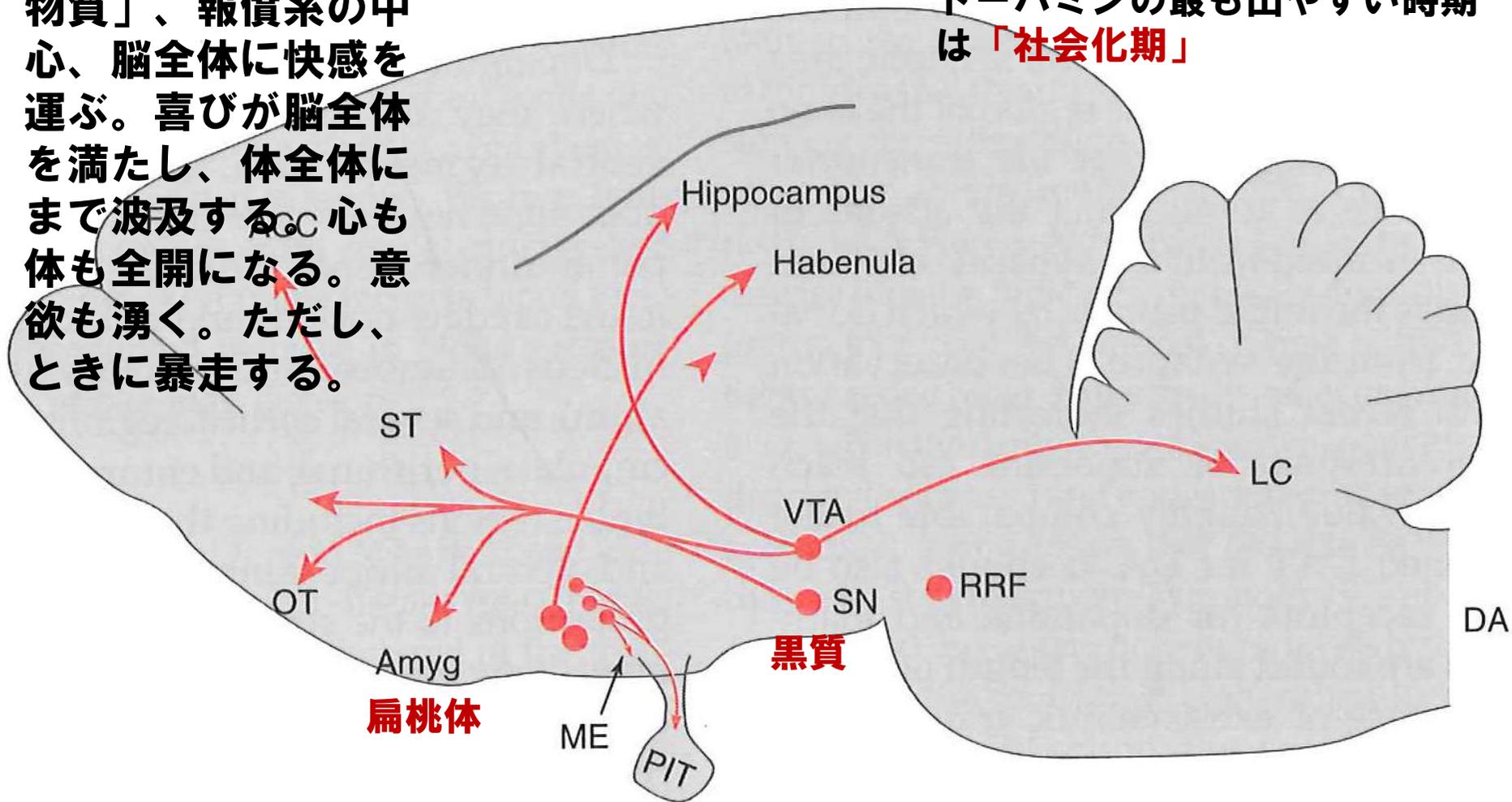
ノルアドレナリンは興奮させ、ドーパミンは快感とやる気をださせ、セロトニンが調整しバランスをとらせます。

# ドーパミン

ドーパミンは「快感物質」、報酬系の中心、脳全体に快感を運ぶ。喜びが脳全体を満ち、体全体にまで波及する。心も体も全開になる。意欲も湧く。ただし、ときに暴走する。

Dopamine

ドーパミンの最も出やすい時期は「**社会化期**」



# パピートレーニングとその目的

- パピートレーニングとは

犬が人間社会でも問題なく社会生活が送れるようになることを目的とした犬の基本的な初等教育であり、仔犬の**移行期～社会化期初期**から開始し、少なくとも1歳齢まで継続的に行なうべきトレーニングである

- パピートレーニングにおける3つの目標

- 1) **家族や他の人**と仲良く触れ合えるようにする
- 2) **犬同士**で仲良く触れ合えるようにする
- 3) これから生活していく**環境**で遭遇する刺激に慣らす

- これらを仔犬の社会化といい、パピートレーニングの十分な効果を得るためには、移行期から徐々に開始し、**社会化期**には集中的に実施する。

- **社会化期**は、他のどの時期と比較しても社会性を身に付けるための感受性が特に高い時期と言われている。社会化期にパピートレーニング行なわなかった犬は、社会性を身に付けるチャンスを逃すことになる。

- しかし、社会化期以降も、性成熟を過ぎる頃に再び感受性が高まる時期があると言われおり、この時期までパピートレーニングを継続していなければ、社会化期に行った効果がリセットされてしまうと考えられている。したがって、パピートレーニングの内容はその実施頻度を変えたとしても、**少なくとも1歳齢まで継続**する必要がある。社会性を継続的に発達させるためには、一般的な**しつけ方教室**(「**パピークラス**」や「**グループレッスン**」)等に通うべきである。